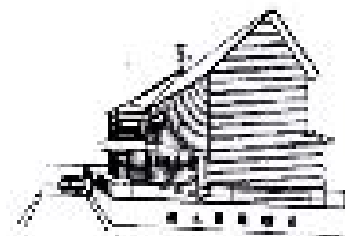


<今朝の聖書から>ここに用いられている“語り”は“十誡”をも示している重要な言葉です。19：4に注目しましょう、ここでは“あなたはあなたの神、主の聖なる民だからである。主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた（申命記 14：2）”に代表されるように、とだけ触れましょう。鷲が雛を育て訓練する時、いろいろと悩む事はしません。ただ巣立ちの日まで、“下を飛んでささえる”などして、条件に関係なく、神に与えられた力によってひたすら、すべてに優先させて雛を守り通す姿に、イスラエルと神の関係を示しているのです。私たちも重要な人、身近な人に、何か大切な事を語るとしたら、何を選んで語るか、思いめぐらせてみるのも楽しいことでしょう。また久しぶりに会う時に“尽きぬ話”という言葉を使います。ところが“大切な要点”を整理して語るとなると、難しいものです。長い時間いろいろと話したけれど結局、何の話をしたのか分からないということの反対です。19：6に“これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である”とありますが、この“語るべき言葉”について聖書から学びましょう。“語る”のですから、この語るのは人々です。今朝の箇所 19：3 から以降、レビ記、民数記の10章まで、詳しく契約について語られています。原語は“語ることを語る”という詩的な表現になっています。次の箇所に進みましょう。そしてこの言葉には“つい数か月前まで体験していたこと”という、どんな説教にも勝る力があつたのです。そしてその言葉は続きます。19：5に“それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば”とあるのは、条件になっています。どちらかの選択を迫っているかのようです。イスラエルに属する人々の問題なのです。契約を守ることに価値を認めなければ、そこに契約の言葉があっても、ただのお話にすぎません。“王国”という表現は、現実にはないもので、神が王であることを示しています。また一人一人が祭司としての務めを行わなければならないことを、語っています。シナイ契約はむかしの言葉遣いで書かれています。現代には現代の言葉があるように、分かりやすく記されているのですが、やがて主の恵みの契約にまで、預言者、教会を通して、伝えられていることに感謝しましょう。

週報

2010年 5月 2日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042